

概要版

福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)

2017年度(平成29年度)～2026年度(令和8年度) [10年間]

前期実施計画 2017年度(平成29年度)～2021年度(令和3年度)

後期実施計画 2022年度(令和4年度)～2026年度(令和8年度)



ばらのまち福山
イメージキャラクター
「ローラ」

上下水道事業の現状は？

技術力をもった
職員の退職

人口減少等による
水需要の低迷

上下水道施設の
老朽化

事業の重要性等の
周知不足

前期5年間で、更なる環境の変化がありました

福山市の方向性
・福山みらい創造ビジョン など

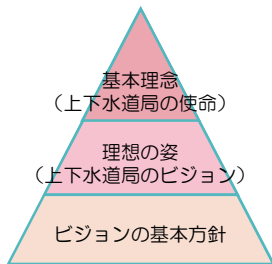
国の方向性
・広域連携の推進
・防災・減災、国土強靱化の推進
・デジタル技術の活用
・SDGsの推進 など

平成30年7月豪雨など
自然災害の頻発化・激甚化

新型コロナウイルス感染症
の感染拡大

解決するために・・・

ビジョン・・・上下水道事業がめざす将来像や目標を示したもの



質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが
実感できるまちの実現に貢献する

将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼
される安心・安全でしなやかな上下水道事業を目指す

- 4本の柱
- 1 安心・安全でしなやかな上下水道
 - 2 環境にやさしい上下水道
 - 3 市民に信頼される身近な上下水道
 - 4 将来にわたって持続可能な上下水道



どんなことをするの？

2022年度(令和4年度)からの5年間でこれらの事業に力を入れて取り組みます！！



① 強靱化対策を加速化します！

頻発化・激甚化する自然災害等のリスクに備えるため、
計画的・積極的に施設整備を行うことで、
強靱化対策を加速化します

水道 前期:137.1億円 ⇒ 後期:150.7億円

- ・管路の更新・耐震化
- ・配水池の耐震化 など

○基幹管路の耐震化率
68.6% (2017) ⇒ 77.6% (2026)

工業用 前期: 17.5億円 ⇒ 後期: 43.4億円

- ・管路の更新・耐震化 など

下水道 前期:129.2億円 ⇒ 後期:468.7億円 ※⑤を含む。

- ・汚水管路の耐震化・長寿命化
- ・松永浄化センターの耐震化・長寿命化
- ・雨水ポンプ場の整備(一ツ樋ポンプ場, 中央ポンプ場) など

○下水道重要幹線等の耐震化率
46.8% (2017) ⇒ 52.4% (2026)

水道管路の更新・耐震化



② 危機管理体制を強化します！

事故や災害発生時における影響を最小限にとどめるため、
危機管理体制を強化します

- ・業務継続計画(BCP)など危機管理マニュアルの見直し
- ・仮設水槽など資機材・設備の計画的購入

③ デジタル化に取り組みます！

市民の利便性の向上や行政事務の
効率化に向けて、デジタル化を推進します

キャッシュレス
決済の導入

AI管路劣化予測
の導入

④ 広域連携を推進します！

経営基盤の強化と危機管理体制の充実に向け、
広域連携を推進します

水道 備後圏域をはじめ他事業体との効果的な事業連携
を検討・実施

下水道 「広島県下水道事業広域化・共同化計画」を踏まえた
更なる施設の広域化や維持管理の共同化

⑤ 抜本的な浸水対策に取り組みます！

近年頻発する豪雨による浸水被害に備え、
国・県等と連携し、抜本的な浸水対策を推進します

下水道 前期: 40.2億円 ⇒ 後期:172.1億円

- ・手続川流域内水排除対策のための整備
(蔵王雨水幹線, 蔵王ポンプ場) など

○都市浸水対策達成率
52.9% (2017) ⇒ 57.9% (2026)

蔵王ポンプ場完成イメージ図



⑥ 広報広聴活動を推進します！

市民の皆さまに上下水道事業について
理解を深めていただくため、
より効果的な広報広聴活動に取り組みます

- ・対象者に見合った内容や手段による、
より効果的な広報活動
- ・オンラインやSNS等を活用した新たな取組を推進

YouTube

福山市上下水道局
公式チャンネル





事業経営の見通しは？

事業経営にあたっては、市民生活等を支える重要なライフラインとして上下水道サービスを提供し続けるため、必要な投資を着実にしながら、経営の健全性を維持することが必要です

本市は、類似団体と比較して、資金残高が十分でなく、企業債残高が多い状況にあります

そこで、新たに経営面での目標水準を設定し、上下水道事業の経営健全化に取り組んでいきます

《個別指標の目標水準》

事業	目標とする指標	現状 2020年度	目標とする水準
水道	純損益	17億円	純利益を確保する
	給水収益に対する資金残高	6か月分	6か月分以上を確保する
	給水人口一人当たり企業債残高	7.8万円	6.9万円以下とする
工業用水道	純損益	8億円	純利益を確保する
下水道	純損益	19億円	純利益を確保する
	下水道使用料に対する資金残高	3か月分	6か月分以上を確保する
	処理区域内人口一人当たり企業債残高	22.9万円	21.0万円以下とする

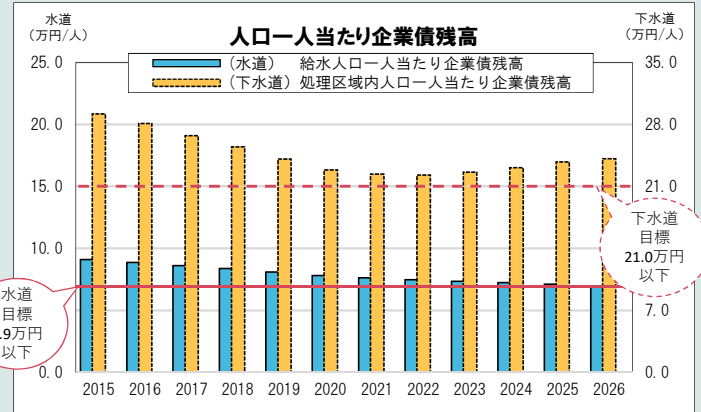
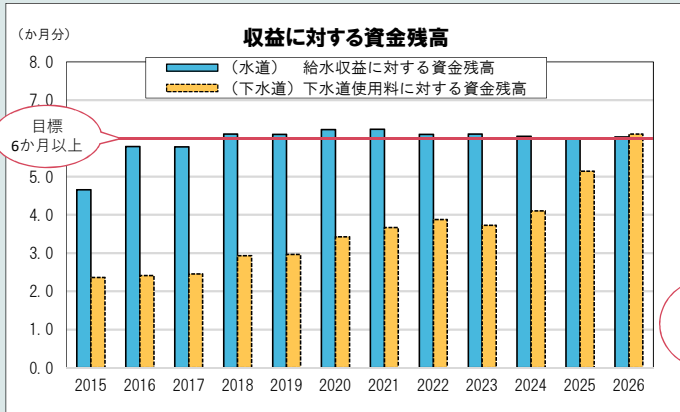
《投資・財政計画（財政見通し）試算の考え方》

- ・人口減少などによる厳しい収入予測の中での安定経営の堅持を前提とし、限られた財源を活用して投資を行う
- ・「防災・減災、強靱化対策」「抜本的な浸水対策」に重点的に取り組む
- ・持続可能な事業経営のために必要な資金を確保しつつ、将来世代への負担が大きい企業債残高の削減に取り組む

《目標水準等の達成見込み》

	水道	工業用水道	下水道
純損益	毎年度 3会計とも純利益を計上 ○ 計画期間内においては、事業経営に必要な費用を料金収入等で賄っている		
資金残高	2026年度（令和8年度） 6か月分以上を確保 ○	後期5年間は同水準を確保	2026年度（令和8年度） 6か月分以上を確保 ○
企業債残高	2026年度（令和8年度） 6.9万円/人以下を達成 ○	2030年度（令和12年度） 企業債残高ゼロ	2026年度（令和8年度） 24.1万円/人 ✕

浸水対策、施設の強靱化対策に多額の事業費を要するため、計画期間内での目標達成は困難ですが、計画期間後の2032年度に目標を達成する見込みです。



《将来の事業環境の見込み》

- ・水道料金収入・下水道使用料収入は、人口減少等の要因から減少し続けるものと見込んでおり、経営環境は厳しさを増していきます
- ・そのような環境にあっても、将来に過度の負担を先送りにしない、財政規律を踏まえた健全で安定した経営を行います



SDGsに取り組んでるの？

上下水道事業においても、引き続き、SDGsの理念に沿った取組を推進します



[上下水道事業と関わり深いSDGs]



水道は2025年(令和7年)に通水100周年を迎えます！

2022年(令和4年)3月 改定
福山市上下水道局